

システムデザイン学部 教員一覧

教員の専門分野・研究分野の紹介

ヒューマンメカトロニクスシステムコース →p.094

- 青村 茂 教授
バイオメカニクスと身体運動、福祉工学、ロボット作業の自動化
- 池井 寧 教授
五感情報学、バーチャルリアリティ、認知工学、インタフェース
- 児島 見 教授
制御工学、ロバスト制御、予測制御法などの開発とその応用
- 下村 芳樹 教授
サービス工学に基づくサービスCAD開発。環境調和型設計
- 関原 謙介 教授
脳活動の計測と可視化、特に脳磁界から脳活動を計測画像化
- 藤江 裕道 教授
臨床バイオメカニクス、ロボティクスを応用した生体機能解析
- 武藤 信義 教授
電気自動車などの環境対策車の知的ピークル制御、太陽光、風力
- 森 泰親 教授
ディジタル制御、むだ時間制御、スライディングモード制御
- 諸貫 信行 教授
機能表面とデバイス、自己組織ナノプロセス、マイクロメカニズム
- 楊 明 教授
MEMSの製造と評価、MEMSを利用した生化学分析
- 金子 新 准教授
自己整列マイクロ／ナノ粒子による構造作製
- 久保田 直行 准教授
パートナーロボット、知的センサネットワーク、認知システムと行動学習
- 菅原 宏治 准教授
高性能と環境調和を両立するナノ構造フォトニクス材料の探索
- 武居 直行 准教授
人間支援ロボティクス、触覚テクノロジー、柔軟メカトロニクス
- 和田 一義 准教授
医療福祉ロボット、空間型ロボットに関する研究
- 石橋 良太 助教
システム制御分野、ロボティクス・ハプティクスに関連した研究
- 坂口 堯 助教
プラズマ流体における非線形波動現象の研究
- 佐久間 秀夫 助教
光応用計測
- 館山 武史 助教
機械学習、知能ロボティクス
- 千葉 龍介 助教
社会・生体・ロボットシステム工学
- 中橋 浩康 助教
血管・神経のバイオメカニクス

情報通信システムコース →p.096

- 阿保 真 教授
計測・情報伝送（大気環境計測、情報通信の計測への応用）
- 岩崎 一彦 教授
高信頼コンピュータ（ディペンダブルネットワーク）
- 貴家 仁志 教授
メディア信号処理（ディジタル信号処理、画像情報圧縮）
- 田川 憲男 教授
画像情報処理（画像認識、統計的推定、超音波信号処理）
- 長澤 親生 教授
レーザ・光情報処理（レーザセンシングによる環境計測）
- 西谷 隆夫 教授
モバイルメディア処理アーキテクチャ（携帯メディアプロセッサ）
- 福本 聡 教授
耐故障計算技術（並列分散システム、自己回復可能なコンピュータ）
- 山口 亨 教授
知能情報処理（ネットワーク型知能、ネットワークロボティクス）
- 大久保 寛 准教授
波動情報工学（信号解析、数値シミュレーション、電磁界計測）
- 片山 薫 准教授
データ工学（データマイニング、問い合わせ最適化、情報検索）
- 高間 康史 准教授
知能情報処理（Web インテリジェンス、情報検索・可視化）
- 西川 清史 准教授
ディジタル通信（無線通信方式、メディアデータの効率的伝送）
- 三浦 幸也 准教授
VLSIシステム工学（VLSIのテスト方法、高品質VLSIの設計）

- 新井 雅之 助教
計算機システム・ネットワーク
- 柴田 泰邦 助教
計測工学、レーザ工学、光電波工学
- 下川原 英理 助教
知能情報処理に関する研究分野
- 藤田 八郎 助教
符号理論、信号処理に関する研究
- 藤吉 正明 助教
メディア情報セキュリティ、画像処理

航空宇宙システム工学コース →p.098

- 浅井 雅人 教授
流れの安定性と層流から乱流への遷移、乱流及び剥離流の制御
- 小島 広久 教授
フリーフライング宇宙ロボットの力学、制御、知能化
- 竹ヶ原 春貴 教授
プラズマを利用した宇宙推進機及び宇宙でのプラズマの工学的応用
- 田中 信雄 教授
宇宙構造物の有する軽量で柔軟な静粛化制御技術の開発研究
- 福地 一 教授
衛星通信・放送、マイクロ波リモートセンシングに関する研究
- 湯浅 三郎 教授
ハイブリッドロケットエンジン開発、GTエンジン内燃焼機構解明
- 渡辺 直行 教授
複合材料に関する強度と損傷進展、構造流体連成問題
- 金崎 雅博 准教授
流体力学、空力最適設計法についての理論・数値シミュレーション
- 北岡 幸一 准教授
航空宇宙用軽量金属材料の材料設計、力学的特性の評価
- 佐原 宏典 准教授
革新的宇宙システムの研究開発、その利用法開拓による未来の宇宙の創造
- 白鳥 敏正 准教授
超音速内部流と衝撃波挙動、リフトファンシステムの空力的特性
- 田川 俊夫 准教授
磁場下における気液二相流、材料プロセスにおける電磁場制御
- 青柳 潤一郎 助教
宇宙推進システム工学
- 稲澤 歩 助教
流れの不安定性と乱流遷移及び空力音に関する研究
- 岩本 宏之 助教
分布定数系構造物の振動・騒音制御
- 小澤 俊平 助教
微小重力環境を利用した高温融体の熱物性計測及び新材料開発
- 櫻井 毅司 助教
超小型ガスタービンやハイブリッドロケットエンジンの燃焼に関する研究
- 渡部 武夫 助教
宇宙デザインシステム等、柔軟宇宙構造物の力学と制御

経営システムデザインコース →p.100

- 會田 雅樹 教授
通信ネットワークの性能評価技術、品質計測技術、社会構造の分析
- 朝香 卓也 教授
環境情報システム技術・環境ネットワークシステム技術の研究
- 飯村 清明 教授
OR問題における数学的手法、整数論
- 梶原 康博 教授
生産システム設計、生産管理、作業の自動化
- 川上 満幸 教授
人に優しい環境と福祉をコンセプトにした産業人間工学の研究
- 瀬尾 明彦 教授
作業による身体負担の人間工学的な計測・評価手法の開発
- 松井 岳巳 教授
人間工学、安全工学、安全と医療に関するシステムデザインの研究
- 山本 久志 教授
信頼性工学、データマイニング、オペレーションズリサーチ
- 開沼 泰隆 准教授
サプライチェーンマネジメント、マーケティング・リサーチ
- 澁谷 正弘 准教授
企業情報の知識化に関わるIT活用技術

- 西内 信之 准教授
マンマシンシステム、ヒューマンインタフェース、画像処理
- 増田 士朗 准教授
システム制御工学、経営工学における動的システムデザイン
- 山中 仁寛 准教授
認知行動モデル、ヒューマンファクターを考慮した事故防止の研究
- 作元 雄輔 助教
大規模な通信ネットワークの解析、シミュレーションの研究
- 滝 聖子 助教
生産システムの設計・管理、組立・検査作業の自動化
- 茅原 崇徳 助教
感覚や感性に依存する品質の定量化と製品設計の研究
- 長塚 豪己 助教
統計学、品質管理、信頼性工学

インダストリアルアートコース →p.102

- 稲垣 博 教授
スペースデザイン、ディスプレイデザイン
- 笠原 信一 教授
CAD、コンピュータグラフィックス、ソフトウェアデザイン、IT
- 中山 久美子 教授
メディアアート、インタラクティブアート、バーチャルリアリティ
- 工藤 強勝 教授
グラフィックデザイン、ブック・エディトリアルデザイン、タイポグラフィ
- 長田 謙一 教授
芸術学、デザイン史、現代アート&デザイン社会関係論、アート企画
- 山下 敏男 教授
トランスポートーションデザイン
- 笠松 慶子 准教授
人間工学、ヒューマンインタフェース
- 金石 振 准教授
製品デザイン企画、融合デザインイノベーション
- 楠見 清 准教授
編集論、出版プロデュース、メディア文化史、芸術評論
- 今岡 俊博 准教授
映像メディアデザイン
- 藤原 敬介 准教授
リビングデザイン、家具デザイン
- 渡邊 英徳 准教授
Webアート、ネットワークメディアアート
- 相野谷 威雄 助教
インダストリアルデザイン
- 安藤 大地 助教
メディアアート
- 土屋 真 助教
空間デザイン
- 西崎 実徳 助教
日常的行为とグラフィックデザイン
- 馬場 哲晃 助教
メディアアート、インタラクティブデザイン
- 山口 祥平 助教
アート&デザイン社会システム

健康福祉学部

Faculty of Health Sciences

<http://www.hs.tmu.ac.jp/>

- 108 看護学科
- 110 理学療法学科
- 112 作業療法学科
- 114 放射線学科

健康福祉学部



人を支える経験を通して自らの人間性を成長、発達させる職業。
これからの医療に欠かせない、チーム医療で活躍できる人材を育成します。

21世紀に入り、今ほど「生活の質（quality of life:QOL）」の維持と向上が強く求められている時代はありません。首都東京においても保健・医療・福祉の面で多くの問題が顕在化し、高齢化、少子化、核家族化などの諸問題は、東京のみならず国全体の問題として取り上げられています。特に、大都市東京では地域のコミュニティが希薄化しており、独居高齢者や子育てをどのように支援もしくはケアしていくかが大きな課題となっています。さらに、東日本大震災を踏まえて大規模災害への対策も社会的に高い関心を集めています。

本学部では、このような社会の要請に応えるため、看護学科、理学療法学科、作業療法学科及び放射線学科の各学科で、明日の保健・医療を担うメディカル・スペシャリストの育成を通して「活力ある長寿社会」の構築に取り組んでいます。

今日の医療現場における課題の一つに「チーム医療の実現」があります。本学部では他の医療系大学との合同セミナーやイギリスの大学との短期交換研修など、多職種による医療連携教育を実施することにより、国際的な保健・医療の視点を獲得し自らの専門性に立脚しつつ他の医療スタッフと有機的に連携協働して医療行為に当たる能力を備えた人材の育成に力を注いでいます。

保健・医療・福祉の専門職は、患者さんや障害者の方々及びそのご家族との出会いや、闘病、障害予防、機能回復などを支援する経験を踏まえて、自らの人間性をも成長、発達させていく職業です。健康福祉学部では、そのような社会的に意義のある専門職を目指す、意欲と情熱にあふれた皆さんをお待ちしております。

健康福祉学部長 木下 正信

健康福祉学部

看護学科

理学療法学科

作業療法学科

放射線学科

学部の特徴とポイント

健康福祉学部の目的は豊かな人間性を備えた保健医療職業人を育成することです。さらに、本学部のモットーである「実践に役立つ医療人」の育成を目指して、徹底した基礎知識の修得をベースに実践を意識した教育や実習に力を入れています。

本学部の1年次には南大沢キャンパスで共通教養科目を履修し、各科目の専門教員からより高度で内容の濃い講義を受講できるという総合大学ならではの授業構成となっています。一方、本学部では大都市・東京の問題・課題に応えるカリキュラムも豊富に用意されています。一例を挙げると、看護学科における高齢化に対応した在宅看護学、高齢者看護学、大都市における災害保健・災害看護活動のプログラム、理学療法学科と作業療法学科の高齢化社会における医学的リハビリテーションの各分野に適合したプログラム及び地域リハビリテーションを重視したプログラムなどがあります。さらに、放射線学科では学生が開発した医用画像処理技術が都立病院で実際に活躍しているなど東京という地域に密着した研究教育も本学の大きな特徴です。

人材育成の狙い

本学部の1年次は、南大沢キャンパスで他学部の学生と一緒に教養科目を学び、幅広い基礎知識を修得するとともに、早期から専門職業人としての資質を養うため、専門教育科目も履修します。2年次以降は荒川キャンパスに移り、国家資格取得に向けた専門教育科目の履修や臨地・臨床実習などが行われます。そのために、都立病院をはじめとした医療機関や福祉施設の緊密な協力のもと、学生の臨地・臨床実習先として受け入れてもらっています。

さらに、高度な専門知識と柔軟な応用力を身につけるために大学院を設置し、東京都医学研究機構（神経科学総合研究所、精神医学総合研究所および臨床医学総合研究所）や東京都健康長寿医療センター研究所といった最前線の医療現場に従事する臨床家や研究者に講師を依頼し、より実践的な学部教育を通して高度かつ実践的な健康福祉の専門家の育成に努めています。

看護学科

http://www.hs.tmu.ac.jp/faculty/kango.html



保健・医療・福祉チームの中でリーダーシップを発揮できる看護職を養成

社会が急速な変化を遂げ、高齢化など保健、医療、福祉の面で日本が新たな局面に立たされています。このような背景のもと、看護学教育は「社会からの要求や期待に応えられるサービスを提供できる看護職」の育成がてきえるかどうかを問われています。

そこで、本学科では医療機関を中心とした従来の看護に加え、高齢者看護、在宅看護、地域看護、家族看護、それにターミナルケアなど、大都市東京の地域特性に対応した、それらの看護を実践できる能力の育成を目指しています。

なかでも、特に最近増え続ける在宅看護については、的確な判断力のもとに患者の身体の状態に応じた看護技術が求められます。さらに、

看護を取り巻く新たな動きとして、より専門性の高い看護が必要とされています。こうした現状を踏まえながら、本学科の講義では、最新の知識を学び十分な基礎的能力を身につけることを重視しています。また、演習では教員のデモンストレーションや視聴覚教材を通じて学習したあと、理論のもとに学生同士で患者と看護者役を経験し、実践的な技術や判断力、倫理的な感受性を修得します。

さらに、臨地実習では事前にOSCE（客観的臨床能力試験）を実施し、臨地実習が安全かつ効果的に行えることを確認した上で、学生はすべての看護学専門領域において実際に患者を受けもち、問題解決法を用いて看護を実践します。

カリキュラムの特色

本学科のカリキュラムは、4年間を通じて専門性、科学性、倫理性の側面から学生が学習を重ね、卒業時に到達目標を達成できるよう構成されています。1年次から3年次までに、長期間の実習を含めて各専門領域の学習を行います。4年次には、卒業研究や総合臨地看護学

実習など、学習を統合する科目を設定します。さらに、看護倫理学や看護管理学などの科目において、倫理的な判断能力、マネジメント能力の基礎を身につけます。

求められる学生像

看護は、胎児から死にゆく人までさまざまな人々を対象として、保健・医療機関、福祉施設、在宅などあらゆる場において実践活動を行います。そのため、必要とされる高い看護実践能力や専門的知識、安全かつ的確に看護を提供できる技術・技能を積極的に修得しようという意欲の

高い人、問題解決能力を備え、クリティカル・シンキングができる人、主体的に行動することができリーダーシップが発揮できる人、他者の尊厳を尊重することのできる豊かな人間性をもった人、広い視野で考えられる柔軟な発想力と行動力のある人を求めています。

履修モデル

区分	1年	2年	3年	4年
都市教養科目群	基礎教養科目 基礎セミナー、実践英語I a.c 情報リテラシー実践I、実践英語I b.d *医療統計学、*生活習慣病と栄養 *人間発達学、*人間の起源と健康 *リハビリテーション概論 その他の科目 心理学 ^a 、教育学 A ^a ・B ^a	医療英語 a.b		
共通基礎教養科目群	理工系共通基礎科目 生物学概説I A ^a			
専門教育科目群	構造機能学I（解剖学） 構造機能学II（生理学） 社会福祉論 保健福祉行政論 生化学 感染・免疫学 看護病態生理学（病理学） 生命倫理 看護学概説I・II 構造機能学演習I（解剖学） 構造機能学演習II（生理学）	薬理学、健康管理論、看護疫学 看護病態生理学（神経内科学/小児科学） 看護病態生理学（内科学） 看護病態生理学（脳神経科学/精神科学） 看護病態生理学（外科学） 看護病態生理学（周産期学） 看護基礎援助学I（人間関係論） 看護基礎援助学II（日常生活援助技術論） 看護基礎援助学III（日常生活援助技術演習） 看護基礎援助学IV（ヘルスアセスメント） 看護基礎援助学V（ヘルスアセスメント演習） 看護基礎援助学VI（診療援助技術論） 看護基礎援助学VII（診療援助技術演習） 実践基礎援助学（看護過程） 実践基礎援助学（看護過程演習） 実践基礎援助学（急性期看護学概論） 実践基礎援助学（慢性期看護学概論） 成長発達看護学（成人） 成長発達看護学演習（成人） 成長発達看護学（母性） 成長発達看護学（小児） 成長発達看護学（高齢者） 精神看護学I 家族発達看護学、地域看護学I ヘルスプロモーション看護論 基礎看護学実習I 基礎看護学実習II	実践基礎援助学（急性期看護学各論） 実践基礎援助学（慢性期看護学各論） 成長発達看護学演習（母性） 成長発達看護学演習（小児） 成長発達看護学演習（高齢者） 精神看護学II 在宅看護学 リハビリテーション看護学 在宅看護学演習 公衆衛生学 看護研究 臨地看護学基礎実習（成人慢性期） 臨地看護学実践実習（成人急性期） 臨地看護学実践実習（母性） 臨地看護学実践実習（小児） 臨地看護学実践実習（高齢者） 臨地看護学実践実習（精神） 臨地看護学実践実習（在宅）	看護管理学 ホスピス緩和ケア論 地域看護学II 卒業研究I 総合臨地看護学実習 看護倫理学 ヘルスアセスメント実践演習 看護管理学実習
選択必修科目				英文文献講読 ^a 、医療経済学 ^a 、卒業研究II、災害保健科学概論 ^a 、災害看護学 ^a 、国際看護学 ^a 、国際保健医療比較論 ^a 、公衆衛生看護実践論、公衆衛生看護技術論、公衆衛生看護管理論、公衆衛生看護学実習
自由科目				ケアマネジメント論

※都市教養プログラムの必修科目 ※1から1科目選択 ※2から1科目選択

取得できる資格・免許

学士（看護学）：卒業を要件として取得できます。

看護師・保健師の国家試験：大学卒業あるいは卒業見込。さらに、保健師国家試験に合格し保健師免許を取得した場合は養護教諭免許（二種）を申請することが可能です。※ただし、保健師国家試験の受験資格については、予め希望をとり（選択制）、一定の人数を超過した場合には学科内で選考審査を行います。

認定看護師教育課程

2009年9月、「がん化学療法看護認定看護師」教育課程を開講しました。5年以上の看護実践経験を経た方が、抗がん剤治療を受ける患者・家族への看護について、さらに7ヶ月間、専門的な知識と技術を学びます。修了後には認定資格を取得します。

在校生インタビュー

教養科目をしっかりと学べることが患者さんとの交流にも役立つはずですよ。

テレビで出産のドキュメント番組を観て感動したことがきっかけで、将来は助産師になること目指して進学しました。看護分野には絶対的な答えはないので、授業でも自分で考えることが重要です。「人間関係論」の授業では学生同士で患者さん役と看護師役に分かれて会話のシミュレーションをしましたが、答えにくい質問にどう対処するかをみんなで議論しながら学べたことがとても印象的でした。3年次からは病院実習が始まるので、いろいろな体験を通して実践力を養いたいです。首都大学東京の看護学科は1年次に教養科目をしっかりと学べることが魅力だと思います。それは将来、患者さんとのコミュニケーションにも必ず役立つはずですよ。



看護学科2年
(2010年10月取材)
濱坂 美穂

病院実習を通して大学では得られない貴重な体験をすることができました。

本学科の3年次後期は病院実習中心のカリキュラムで、約2週間ごとに病院の各診療科でさまざまな分野の実習を体験します。入学してから学んだ知識をフル活用して臨みますが、小児科では子どもの抱き方やあやし方が分からなかったり、大学の学びだけでは補えない部分もあります。実習では、さまざまな人に出会えたり、医療現場の知識が学べたり、とても貴重な体験ができます。荒川キャンパスは医療系の仕事をを目指す学生が集まっているので他学科との結びつきを意識しながら学ぶことができますし、図書館も充実しています。ここでの学びを活かして、将来は患者さんの目線で物事を考えられる看護師になりたいと思っています。



看護学科3年
(2010年10月取材)
瀧平 政典



■ 成長発達看護学演習



■ 高齢者看護学実習前の技術演習



■ フィジカルアセスメント演習



■ 家庭看護学特別演習

理学療法学科

http://www.hs.tmu.ac.jp/faculty/rigaku.html



医学的基礎知識と専門的技術を基盤とした高い「臨床実践能力」を培う

病気やケガをして「起きる」「立つ」「歩く」などの基本的な動作が不自由になった人の能力回復のための治療やトレーニングをするのが理学療法士の仕事です。対象者が社会生活を送るための住宅環境を整えたり、訪問理学療法などを行うこともあります。理学療法士は、今後ますます進む高齢化社会において、身体の機能回復を援助するメディカル・スペシャリストとして活躍が期待されています。

本学科では理学療法士の養成を目的として「医学的基礎科目」「理学療法科目」「臨床医学科目」の3つの専門的分野の講義・演習と、「臨

床実践能力」を育成するために医療機関での実習を行っています。医療の専門家として、専門知識の修得はもとより医療技術をしっかりと身につけた人材の輩出を念頭に置いています。一人一人が確かな技術を身につけられるよう、設備の充実した実習室を備え、各分野の専門教員によって細やかな指導を行っています。4年次の3月に実施される国家試験への合格を目指して学科全体で支援し、高い合格率を誇っています。

カリキュラムの特色

1年次では医学的基礎科目が中心ですが、2年次・3年次と学年が上がるごとに、理学療法・臨床医学などの専門分野での講義・実習が増えてきます。臨床実習は2年次より始まり、2年次で3週間、3年次で8週間、4年次では8週間で、全19週間にもなる時間を実習の教育

に充てています。都内および近隣の医療機関などで行われる実習は、それぞれの医療機関の実習指導者がついたマンツーマンの指導で、技術力を高められるだけでなく、現場で患者さんと向き合う実地体験でさまざまなことが学べます。

求められる学生像

人間に尽くすことの喜びを感じることでできる人を求めます。身体運動機能に困難をもつ人と接しますので、人に対する思いやりや、心

配りがきちんとできる人が望まれます。現代の医療はチームワークで行われますので、人と協調できることも大切です。

履修モデル

区分	1年	2年	3年	4年	
都市教養科目群	基礎セミナー、英語教育、情報教育、都市教養プログラム (p.022 参照) (医療統計学、人間発達学、リハビリテーション概論、保健医療概論、移動の人間工学、人間の認知、教育学 A)	医療英語 a,b			
専門教育科目群	必修科目	解剖学I 解剖学演習 生理学I 理学療法学概論 運動学I 基礎理学療法学 保健医療臨床心理学	運動学II、解剖学II 整形外科I、神経内科学I 精神医学I、内科学 生理学実習、解剖学実習 脳神経外科学、整形外科II 神経内科学II、小児科学I リハビリテーション医学 理学療法学基礎実習 筋・骨格系理学療法学実習 理学療法機器技術学 筋・骨格系理学療法学実習 中枢神経系理学療法学実習 機能・能力診断学実習 中枢神経系理学療法学実習 日常生活活動学 機能・能力診断学臨床実習 機能・能力診断学	運動学実習、臨床運動学 理学療法研究法 神経・筋系理学療法学 心肺系理学療法学 神経・筋系理学療法学実習 心肺系理学療法学実習 物理療法学、物理療法学実習 理学療法学セミナー 徒手技術学I・II 小児理学療法学 徒手技術学I実習・II実習 総合臨床実習I 義肢装具学 義肢装具学実習 高齢者理学療法学 日常生活活動学実習	地域理学療法学 総合臨床実習II 生活環境学 職業倫理職場管理
	選択必修科目			卒業研究*	
	自由科目		病態学I 生化学 小児科学II	老年医学 生理学II	症例研究法、救急医学 ケア・マネジメント論* 運動学習*、リハビリテーション工学* 代謝系理学療法学* スポーツ系理学療法学* 地域理学療法学実習*

*卒業研究を履修しない場合は、*印6科目の中から4科目を履修すること。

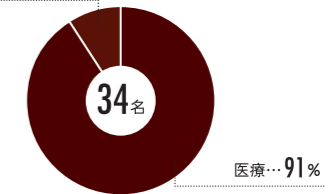
取得できる資格・免許

学士 (理学療法学)：卒業を要件として取得できます。

理学療法士国家試験受験資格：卒業あるいは卒業見込。
理学療法士の免許を取得したのちには実践経験に基づいて、介護支援専門員 (通称：ケアマネージャー) や、関連医学会の認定資格の受験資格を得ることができます。

卒業後の進路 (2010年3月卒業生実績)

その他...9%



*小数点以下を四捨五入しています。

2009年3月、2010年3月卒業生実績

【就職先】 キッコーマン総合病院、埼玉みさと総合リハビリテーション病院、埼玉医科大学総合医療センター、東京都保健医療公社、聖路加国際病院、竹川病院、竹の塚脳神経リハビリテーション病院、東京医科歯科大学医学部附属病院、東京厚生年金病院、順天堂大学医学部附属静岡病院、駿河台日本大学病院、日本赤十字社医療センター、虎の門病院、三葉病院、船橋総合病院、玉川病院、代々木病院、東京湾岸リハビリテーション病院 など

【進学先】 広島国際大学大学院

在校生インタビュー

人体の不思議さ・素晴らしさに触れて学びのモチベーションもアップします。

理学療法の分野は高校までの学習内容とは違うので、覚えなければならない知識が多いですが、その分、新鮮で集中して学ぶことができます。1・2年次は人体の構造について基礎から学びますが、知識がリンクしてくると「人間ってよくてきている!」と実感、勉強が面白くなってきます。また、病院見学で理学療法士の方の仕事ぶりに触れる機会があり、学びのモチベーションもアップしました。本学科は学生数に対して教員数が多いので、幅広い情報や知識、視野に触れられることが魅力ですね。今後は人が身体の痛みや不具合を訴えた時に適切に対処できるように、人体のブロとしての知識・技術を養いたいと思っています。



理学療法学科 2年
(2010年10月取材)

浅井 直樹



理学療法学科 4年
(2010年10月取材)

北原 彩乃



■車いす体験実習



■徒手技術学I実習



■解剖学実習



■心肺系理学療法学講義

作業療法学科

http://www.hs.tmu.ac.jp/faculty/sagyo.html



高度な専門知識と技術を身につけた生活支援スペシャリストを養成

心や体に病気や障害のある方々が、病気や障害を抱えながらも、少しでも自立した生活ができるように支援するのが作業療法士です。

運動機能や精神機能の回復の支援や、日常生活での環境を整えたり、対象者の年齢に応じた就学・就労の支援をするなど、その役割は多様であり、社会にとって大変重要な役割を担う仕事です。

作業療法学科では、保健医療の専門職である作業療法士を養成する学科として、病気や障害、そして作業療法の知識や支援技術などを幅広く学びます。

学内での講義や実習をはじめ、病院やリハビリテーション施設での見学体験、臨地実習など、整えられた環境、充実したカリキュラムのもと、4年間の学びで作業療法士として、自立して働ける力をつけて卒業することを目標とします。同時に4年次の終わりに受験する国家試験への対策も充実させています。

学生たちはさまざまな経験を積み、卒業後は、病院、保健・医療施設、国や地域の機関などを舞台にして活躍しています。また、大学院へ進学し、研究者や指導者を目指す道もあります。

カリキュラムの特色

1年次には共通教養科目や基礎医学などの基礎科目を、2・3年次は臨床医学系の科目と専門科目を中心に学びます。また、2年次の学年末から3年次にかけて病院や施設で作業療法評価実習(3週×2回)をします。さらに3年次の学年末から4年次にかけて、総合臨地実習(8

週×2回)を行います。病院や施設など実際に働く現場での臨地実習は、いわゆるインターンシップの経験であり、学生にとって自己の適性を確認するためにも、たいへん良い経験となります。また、地域リハビリテーション教育に力を注いでいるのも本学科の特色です。

求められる学生像

作業療法士は人としっかり向き合わなくてはならない仕事ですから、人との協調性や社会性、思いやりの心が求められます。また、この仕事を目指す学生は、病気や障害を抱えている人に対して、自分も持っている力を発揮して貢献したい、チャレンジしたい気持ちを大切にし

てほしいと思います。できれば作業療法士が働いている現場を見学させてもらい、この職業に対する理解を深めましょう。講義の内容からいえば、文系と理系のバランスの取れた学力が求められます。

履修モデル

区分	1年	2年	3年	4年
都市教養科目群	基礎セミナー 実践英語I a~I d 情報リテラシー実践I	医療英語 a,b		
	都市教養プログラム 14単位以上(人文・社会学系I-IIから4単位以上、技術・自然科学系I-IIから4単位以上履修する)	★医療統計学 ★リハビリテーション概論 ★保険医療概論 ★人間発達学 ★移動の人間工学 その他の都市教養科目		
必修科目	解剖学I 生理学I 作業療法学概論 運動学I 作業運動学実習 解剖学演習 生理学演習 基礎作業学 作業療法学概論演習 コミュニケーション論 保健医療臨床心理学	解剖学II、生理学実習、病態学I 内科学、外科学、整形外科I 神経内科学I、精神医学I 脳神経外科学、小児科学I 作業運動学実習 基礎作業学実習 作業療法評価学 精神医学II リハビリテーション医学 解剖学実習 作業療法評価学演習 作業療法評価学実習 日常生活活動学 身体作業療法学I 精神作業療法学 作業療法総合演習I 作業療法評価学演習I	老年医学 作業療法学研究法(演習) 精神作業療法学演習 老年作業療法学、発達作業療法学 義肢装具学、身体作業療法I実習 身体作業療法学II 日常生活活動学実習 治療的レク・グループワーク論 作業療法評価学演習II 老年作業療法学演習 発達作業療法演習 義肢装具学実習 身体作業療法学III 認知作業療法学演習 生活支援機器学演習 作業療法総合演習II 総合臨地実習I・II(1期)	総合臨地実習I・II(2期) 地域作業療法学 作業療法マネジメント論 作業療法理論と実践 就労支援技術論演習
選択必修科目				卒業研究 地域作業療法学実習* 作業療法支援機器研究* 専門職関連演習I*・II* 作業療法事例研究* メンタルヘルス作業療法*
自由科目	生活支援環境学	生化学 公衆衛生学 言語聴覚治療学概論 小児科学II 整形外科II 神経内科学II 他	生理学II 精神保健学 社会心理学 障害児教育論 他	リハビリテーション工学 臨床心理学演習 カウンセリング論 ケア・マネジメント論 国際保健医療比較論 住環境整備学 住環境整備学実習 災害保険科学概論 救急医学

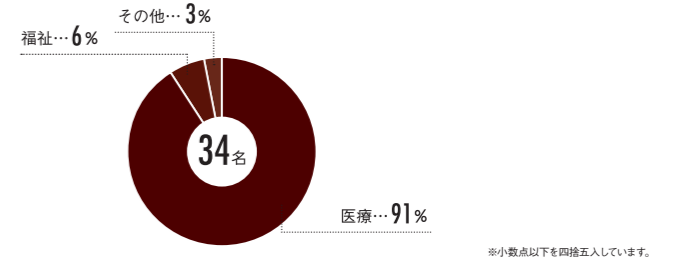
※★都市教養プログラムのうち必修科目 ※☆都市教養プログラムのうち推奨科目 ※下線科目は推奨科目 ※卒業研究を履修しない場合は4科目の中から4科目を履修(科目検討) ※この履修モデルは2011年度入学者を対象として作成している

取得できる資格・免許

学士(作業療法学)：卒業を要件として取得できます。

作業療法士国家試験受験資格：卒業あるいは卒業見込。(作業療法士免許)

卒業後の進路 (2010年3月卒業生実績)



2009年3月、2010年3月卒業生実績

[就職先] 一般・総合病院(多摩丘陵病院、聖路加国際病院、博慈会記念総合病院、三宿病院、湘南鎌倉総合病院、成仁病院)、大学付属病院(東京慈恵会医科大学付属病院、日本大学医学部附属板橋病院、東京女子医科大学病院)、リハビリテーション病院(初台リハビリテーション病院、船橋市立リハビリテーション病院、東京湾岸リハビリテーション病院、甲州リハビリテーション病院、苑田会リハビリテーション病院、慈誠会徳丸リハビリテーション病院)、福祉施設(地域包括ケアセンターいぶき、デイサービス五幸亀七通り)、介護老人保健施設(三郷ケアセンター、回生の里、レーベンハウス) など

[進学先] 首都大学東京大学院、早稲田大学大学院 など

在校生インタビュー

将来の仕事にどう役立つかを意識して仲間と励まし合いながら学んでいます。

2年次から専門科目が増えて覚えることも多くなって大変ですが、将来仕事をする時にどう役立つかを意識しながら学べるので楽しいですね。特に「基礎作業学実習」ではリハビリテーションのプログラムに取り入れる陶芸や織物、木工の作業を仲間と一緒に励まし合いながら楽しく体験できます。また、学生同士のシミュレーションで手技や患者さんとの接し方も学んでいますが、これから体験する病院実習では、実際に作業療法士の方がどのように患者さんと接しているかを学びたいと思っています。そして、将来は患者さんのリハビリテーションに対するやる気を引き出せるようなプログラムや環境づくりができる作業療法士になることが目標です。



作業療法学科 2年
(2010年10月取材)
磯部 朱里



作業療法学科 3年
(2010年10月取材)
池田 太郎



■ 解剖学実習



■ 運動学実習



■ 基礎作業学実習 織物の仕上げ



■ 卒業研究発表会

放射線学科

http://www.hs.tmu.ac.jp/faculty/housya.html



体の中を「診る」。私たちはそのスペシャリストを目指す

放射線学科の教育目標は、放射線技術学の分野において確立された医療技術を理解し、それを安全かつ正確に遂行できる能力をもった診療放射線技師の育成です。

ところで、診療放射線技師と聞くと、皆さんの多くはX線撮影装置を使ったレントゲン検査の光景を思い浮かべるとと思います。確かに、それも診療放射線技師の主要な仕事のひとつです。しかし最近では、コンピュータを利用して体内を輪切りにしたように画像化するX線CT、磁気共鳴イメージング(MRI)、単光子放射型CT(SPECT)、陽電子放射型CT(PET)、超音波診断などの医療機器も扱います。そして、それらのデータから画像処理によって3次元像を構成し、医師に診断

しやすい情報を伝えるのも、診療放射線技師の仕事です。また、がんの放射線治療では、放射線をがん集中して照射するため、コンピュータを利用して複雑な線量計算を行うなど、診療放射線技師は医療において重要な役割を果たしています。

こうした現状と情報教育の重視を掲げる首都大学東京の方針に沿って、放射線学科では情報処理能力の高い診療放射線技師の育成を目指しており、そのためのカリキュラムも他大学と比べ充実しています。

今後のIT化の進展とともに、ますます注目される放射線学科。皆さんの目前には、その可能性に富んだ限りない世界が広がっています。

カリキュラムの特色

放射線学科のカリキュラムは、卒業時に診療放射線技師の国家試験受験資格が取得できるように構成されています。1年次の南大沢キャンパスでは、基礎ゼミナール、実践的英語教育、情報教育、そして「文化・芸術・歴史」「グローバル化・環境」「人間・情報」「産業・社会」などの5つのテーマからなる都市教養プログラムがあります。また、理工

学の基礎となる数学、物理、物理実験、化学があります。3年次後期から4年次で行われる卒業研究(特別研究、専門放射線学セミナー)では、学生の知的好奇心を満たし、柔軟な発想のもとに研究を進める環境作りを心がけています。

求められる学生像

放射線学科では、医学領域と同時に物理をはじめとする理学領域や工学領域も学ぶことができます。そのため、人体に関する正確な医学知識と、理工学の専門知識や技術、应用能力を身につけ、医療現場において医師や他の医療職とともにチーム医療に貢献したいという皆さんには、最適の学科といえます。

なお、一部に診療放射線技師が受ける放射線の被ばくについて危惧される方がいますが、これについては心配いりません。診療放射線技師が仕事で受ける放射線量は、私たちが普段の生活で自然界や宇宙線から受ける「自然放射線」の量の半分以下です。

履修モデル

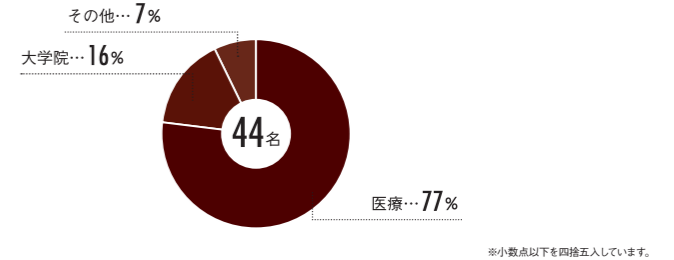
区分	1年	2年	3年	4年
都市教養科目群	基礎ゼミナール、英語教育、情報教育、都市教養プログラム(p.022参照) (医療統計学、医療と画像、社会と福祉、リハビリテーション概論、生活の心理学A、生活習慣病と栄養、人間の認知)	医療英語 a,b		
共通基礎教科科目群	理工系共通基礎科目 (化学概説I b、基礎微積分B、物理通論I、物理学実験第一)			
専門教育科目群	基礎解剖学 生化学 基礎生理学	病理学、医用電気工学 医用電子工学 医用物理学I・II 医用電気・電子工学実験 放射線計測学、X線撮影技術学I 放射線生物学、放射化学 画像解剖学 ペインントケア論I 医用画像写真学、医用画像情報学 医用画像情報学実験 X線撮影技術学II X線撮影技術学実習I 放射線安全管理学 X線診断機器学I 放射線安全管理学実験 診療画像医学I	医用核磁気学 画像診断撮像技術学実習 放射線科学実験 核医学検査技術学実習 X線撮影技術学実習II 核医学診断機器学 画像診断撮像技術学 放射線治療技術学実習 X線診断機器学II 放射線関係法規I 医用画像工学 X線診断機器学実験 放射線治療機器学 核医学I、放射線腫瘍学I 核医学検査技術学 放射線治療技術学	画像診断臨床実習 核医学臨床実習 放射線治療臨床実習 放射線医学概論
	選択必修科目	応用数学 公衆衛生学 超音波技術学	核医学II、ペインントケア論II 放射線腫瘍学II 放射線関係法規II、特別研究I 専門放射線学セミナーI	専門放射線学セミナーII 特別研究II
	自由科目	放射線科学概	画像解剖学演習、空間応用力学 放射線計測学演習 医用画像情報学演習I・II	整形外科学I 脳神経外科学 内科学 診療画像医学II

取得できる資格・免許

学士(放射線学):卒業を要件として取得できます。

診療放射線技師国家試験受験資格:卒業あるいは卒業見込。
これを取り得し国家試験に合格することが第一の目標ですが、この他、放射線の取り扱いや管理に関する専門的な国家資格として放射線取扱主任者があります。放射線に関する物理学、化学、生物学、管理・測定技術、安全管理に関する法律が試験科目です。これらに関する科目がカリキュラムにありますので受験することが可能です。放射線学科では放射線取扱主任者試験に3年次に挑戦することを勧めています。

卒業後の進路 (2010年3月卒業生実績)



2009年3月、2010年3月卒業生実績

[就職先] 国立がんセンター、東京都保健医療公社、都立病院、日本赤十字社医療センター、がん研有明病院、国立精神・神経医療研究センター、順天堂大学医学部附属病院、東京慈恵会医科大学附属病院、日本医科大学付属病院、千葉大学医学部附属病院、東邦大学医療センター、東京警察病院、東京都予防医学協会、神奈川県予防医学協会、東京都健康長寿医療センター、赤十字病院 など

[進学先] 首都大学東京大学院、東京大学大学院 など

在校生インタビュー

著名な先生方の指導と充実した環境で 高度な撮影技術を磨くことができます。

小さい頃からスポーツが好きで、よくケガをして病院に行っていました。その時、放射線技師の方にお世話になっていたことがこの分野に進むきっかけでした。1年次は南大沢キャンパスで教養科目中心に学びましたが、2年次から専門科目が多くなり、自分を含めてクラス全体の学習に対する意識も上がりました。「X線撮影技術学」ではさまざまな撮影方法や部位による撮影角度の違いなどを学びましたが、撮影時の条件や撮影者によっても写真の出来上がりが違ってくるので、技術を磨くことの大切さを実感しました。本学科は他大学に比べて女子学生が多いです。また、著名な先生方も多く、とても親身になって指導して下さいます。



放射線学科 2年
(2010年10月取材)
渡邊 尊仁

豊富な実験・実習科目を通して 体系的に考える力が養われました。

本学では2年次から専門科目中心のカリキュラムで実験・実習も多く、X線検査をはじめさまざまな種類の実験・実習を体験できるので興味深く学べます。特に「撮影技術学実習」では病院にあるMRI装置と同じものを使って、学生同士で実際に撮影を行うので現場の雰囲気が味わえます。3年次は週3回実験があり、レポート作成が大変ですが、過去に学んだ知識や他分野の知識の関連性がだんだん分かってきて、体系的に物事を考える力がついてきたと感じています。4年次の病院実習では患者さんとの接し方やチーム医療における放射線技師の役割について学び、将来は患者さんに信頼される技師になりたいと思っています。



放射線学科 3年
(2010年10月取材)
野尻 美奈



■ MRI装置



■ X線CT装置



■ 医用電子工学実験



■ 放射線計測学講義

健康福祉学部 教員一覧

教員の専門分野・研究分野の紹介

看護学科 →p.108

安達 久美子 教授
若年妊娠・出産、思春期の性と健康、ピアカウンセリング、子育て支援

飯村 直子 教授
小児看護学、検査や処置を受ける子どもへの援助、小児科外来における子どもと家族への援助

勝野 とわ子 教授
高齢者看護学、レミニッセンス、QOL、認知症高齢者へのケア方法・ケアシステムの開発、災害看護、研究方法

河原 加代子 教授
地域看護学・在宅看護学、脳血管疾患の予防と地域リハビリテーションケアの看護方法

木下 正信 教授
神経内科学、臨床遺伝学、筋緊張性ジストロフィー1型・Naチャネルopathiesの臨床病態と遺伝子異常

斉藤 恵美子 教授
公衆衛生看護学、地域看護学、コミュニティ・アセスメント

志白岐 康子 教授
看護倫理学、看護管理学、臓器移植看護、終末期医療における看護職者の役割

猫田 泰敏 教授
地域看護活動評価論、保健学、公衆衛生学

山村 健 教授
精神看護学、精神衛生学、臨床心理学

飯塚 哲子 准教授
終末期看護学、レスエデュケーション、健康学習

石川 陽子 准教授
国際看護・保健、看護政策、医療政策

加藤 星花 准教授
小児・思春期精神疾患及び精神保健

木村 千里 准教授
母性看護・助産学、地域母子保健と育児支援、母乳育児支援、疾患をもつ女性のウイメンズヘルス

古賀 節子 准教授
高齢者看護学、看護教育社会学、看護師の熟達と看護教育・看護管理、看護師のAutonomy

佐藤 政枝 准教授
基礎看護学、環境看護学、患者の環境移行及びQOLに関する研究

清水 準一 准教授
在宅看護学、生体からの機器提供者と家族のケア、調査研究方法論

習田 明裕 准教授
基礎看護学（フィジカル・アセスメント）、看護倫理学、看護技術のエビデンス、臓器移植看護

鈴木 享子 准教授
母性看護・助産学、分娩期の産痛対処行動と達成感、乳房ケア技術、産痛対処メカニズム研究、子育て支援途上国での助産活動

岡部 真美 准教授
母性看護・助産学、母子相互作用と乳幼児精神保健

種吉 啓子 准教授
小児看護学、慢性疾患のある子どもとその家族への看護

福井 里美 准教授
成人看護学、がん看護学、慢性期疾患患者への心理社会的支援、緩和ケアの実践知、サポートグループの実践研究

三浦 里織 准教授
がん看護学、がんリハビリテーション看護、がん患者におけるナラティブアプローチへの研究

村上 好恵 准教授
がん看護学、家族性腫瘍の患者及び家族への看護ケアの探究と開発、サイコオンコロジー

山本 美智代 准教授
小児看護学・障害のある子どものきょうだいへの看護、障害のある子どもの家族への看護介入

青山 美紀子 助教
高齢者看護学、災害看護、在宅看護

池田 真弓 助教
母性看護・助産学、周産期のウイメンズヘルス

笠原 康代 助教
基礎看護学

呉 珠響 助教
地域看護学

三輪 聖恵 助教
新卒看護師の職場適応に関する研究

村田 加奈子 助教
在宅看護学

森田 敦子 助教
精神看護学、精神科訪問看護、産業保健に関する研究

安田 由美 助教
小児看護学

理学療法学科 →p.110

網本 和 教授
脳挫傷による高次神経機能障害の評価と治療について

池田 誠 教授
都市生活で必要な行動能力の修得に関する理学療法技術の研究

井上 順雄 教授
神経生化学、神経再生科学：ES細胞から神経系細胞への分化誘導

金子 誠喜 教授
教育方法及び運動解析に基づいた身体運動・動作機能指導について

後藤 保正 教授
関節滑膜の免疫組織化学的研究と人体各器官の元素を分析

新田 収 教授
人の運動発達及び脳性麻痺における身体・運動学的な特徴について

柳澤 健 教授
ヒトの姿勢及び運動ならびにPNF手法に関する研究

渡邊 修 教授
高次脳機能障害、脳外傷のリハビリテーションの研究

池田 由美 准教授
認知機能と運動に関する研究

大津 慶子 准教授
車イス・シーティング、日常生活活動、運動・動作分析、ユニバーサルデザイン、小児運動発達

竹井 仁 准教授
徒手理学療法技術の研究及び関節運動学の研究

古川 順光 准教授
運動生理学・障害科学

山田 拓実 准教授
呼吸リハビリテーション、高齢者の運動機能、介護予防の研究

神尾 博代 助教
リハビリテーション科学、応用健康科学、教科教育学

米間 弘展 助教
機能的磁気共鳴画像などを用いたヒトの運動に関する研究

信太 奈美 助教
障害者スポーツに関する研究、脊髄損傷のリハビリテーション

作業療法学科 →p.112

大嶋 伸雄 教授
身体障害の作業療法、認知リハビリテーション、リハビリテーション・マネジメント理論、保健医療福祉専門職連携理論(IPW)・連携教育(IPE)に関する研究

菊池 吉見 教授
認知神経科学、脳機能イメージングに関する研究

里村 恵子 教授
精神障害者の地域リハビリテーションに関する研究

繁田 雅弘 教授
精神医学、認知症及び統合失調症に関する研究

山田 孝 教授
人間作業モデルに関する研究、感覚統合評価法の研究

渡辺 賢 教授
筋内生理学、細胞生理学に関する研究

伊藤 祐子 准教授
発達障害児の作業療法における評価・支援システムの開発に関する研究、感覚統合・遊具・福祉用具に関する研究

井上 薫 准教授
福祉機器の開発及び適応、高齢者の運転能力に関する研究、作業療法教育

岡牟田 洋美 准教授
老年心理学、閉じこもり高齢者に関する研究

小林 法一 准教授
高齢者の地域作業療法に関する研究

橋本 美芽 准教授
住環境整備学、高齢者・障害者の住環境と適用技術に関する研究

三浦 香織 准教授
小児虐待に関する研究、発達障害児に関する研究

石橋 裕 助教
特定高齢者（特に閉じこもり）の作業に関する研究

川又 寛徳 助教
高齢者に対する予防的作業療法に関する研究

谷村 厚子 助教
地域精神保健サービスにおける当事者のニーズ、作業療法の研究

宮本 礼子 助教
非侵襲的脳機能画像計測法を用いたヒトの運動と認知機能の研究

放射線学科 →p.114

安部 真治 教授
診療画像機器学、医用画像機器の特性向上、品質保証に関する研究

小倉 泉 教授
X線高電圧発生装置の動作特性改善に関する検討及びその高電圧計測

齋藤 秀敏 教授
放射線治療物理、高度放射線治療に関する研究

篠原 廣行 教授
医用画像情報学、核医学・CTによる生体機能解析

福土 政広 教授
核医学検査技術・機器に関する研究と保健物理に関する研究

八木 一夫 教授
医用工学、放射線診断物理学、MRIによる脳神経線維束の描画研究

大谷 浩樹 准教授
放射線診療における線量評価の高精度化及び放射線防護・管理

加藤 二久 准教授
医学物理学、放射線計測学、放射線管理学、医療情報学

加藤 洋 准教授
核的方法による元素分析、放射線防護に関する研究

関根 紀夫 准教授
X線透視画像を用いた「接触・嚥下障害」の特徴抽出に関する研究

妹尾 淳史 准教授
X線撮影技術学、パシエントケア論、生体内情報の可視化

乳井 嘉之 准教授
医用画像情報学、医用画像処理、医用画像の映像化法及び統計解析に関する研究

眞正 浄光 助教
放射線感応素子の開発とそのメカニズムに関する研究、放射線化学

沼野 智一 助教
診療画像技術学、核磁気共鳴画像法

明上山 温 助教
医用画像処理、3次元画像処理、高精度放射線治療技術

大学院

Graduate school

- 118 大学院構成について
- 119 人文科学研究科
- 120 社会科学研究科
 - 121 法曹養成専攻（法科大学院）
 - 122 経営学専攻 [高度職業人養成プログラム（ビジネススクール）]
- 123 理工学研究科
- 124 都市環境科学研究科
- 125 システムデザイン研究科
- 126 人間健康科学研究科